
昼顔

高千穂ゆづる

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

昼顔

【ZPDF】

Z9897A

【作者名】

高千穂ゆずる

【あらすじ】

無邪気な神子は友雅の想いに気づかない。それでも友雅はゆるりと神子の心が開くのを待つ。これもまた楽しいことだと。

打日わつ 富の瀬川の 容花の 恋ひてか寝らむ 昨夜
も今宵も

その身を打つ陽射しに負けず、昼顔が咲いている。淡い色合いで不釣合いな、その強さはどこかの姫に似ている。

花弁をなぞるとその奥に残っていた朝露が顔を覗かせ、私の指を濡らした。冷たいそれは私の愛しい人の涙によく似ていた。清廉としていて、とても甘い。

それに、夕暮れになると花を閉じるところまで似ているから憎らしい。私の思いを知つてか知らずか。彼女は夜になると途端にしらしくなる。怨霊と向き合つている昼間とは勢いが違うから、可笑しい。

衣を纏つて内側を悟らせないようにするのには、私の自惚れでなければ恥ずかしがつてゐるだけなのだろう。それをやんわりと解すのもまた一興。

無理を通せばこの朝露のようになり、私の指先を濡らすのだろう。恋ふる思いは急かすまい。姫の花弁が緩むまで、私はこゝにして眺めて待つことにしよう。

宵も明けも、思うのは君のことばかりだけれど。

「それをわかつてくれていいのだろうか……私の昼顔の君は……」
振り仰いだ空は濃い青で、落とした視線の先に君がいた。

邪氣のない顔で……私を見る。

傾いだ白い首筋に伸びた髪がかかり、仔猫のような甘えた声で私の名を呼ぶ。

その瞳に映るのが私だけになるように けれど焦ることなく、やんわりと。君の心に忍び込もう。

たとえ宵に固く閉じようとも、明けて開くその時までは 。

「なにか私に用かな？　昼顔の君？」

更に強くなつた陽射しにさえも負けない庭の昼顔に別れを告げて、
屋敷へと踵を返す。御簾を潜つた我が君が、くらめくような笑顔を
こちらへ寄越す。

ああ、恋ふる思ひは急かすまい。

君が皿ら衣を緩ますまでは

。

(後書き)

乙女系ゲームの王道（？）でもある「遙かなる星空の中で」一です。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9897a/>

昼顔

2010年10月21日22時08分発行